

滝山城址 神戸港地方城山



滝山城は新神戸駅の北、生田川西の標高 323 ㍎、通称城山にあった中世の山城である。現在、山の頂上には「史蹟 滝山城址」の大きな石碑が建っている。築城年代、築城者とも不明であるが、『正慶乱離志』の 1333（元弘 3）年の記述のなかに、赤松則村が護良（もりなが）親王の令旨（りょうじ）を受け挙兵した時のことが書かれており、そこには「赤松はもとの布引の城に籠る」とあり、その年には滝山城がすでに存在していたものと思われる。しかし、その後は滝山城も一時歴史の舞台から姿を消し、再び登場するのは 1556（弘治 2）年のことである。すなわち、当時は、摂津を支配していた細川氏を下剋上で倒した三好長慶の家臣、松永久秀がこの城におり、その年に久秀が長慶を城に招いたことが『応仁広記』に出てくるからである。そして、その時久秀は観世大夫の猿楽を催し、千句の連歌を詠んでいることがそこには記述されている。その後、久秀は三好三人衆と不和となり、三人衆が 1566（永禄 9）年 2 月にこの城を攻めたが落ちず、なかなか堅固な城であったことがうかがえる。しかし、同年 6 月には足利義昭の命により篠原長房に城を攻め落とされてしまう。その長房も 1568（永禄 11）年に織田信長の攻略にあい滝山城を捨てて逃げた。そのため城は信長の手の中に入り、摂津守護の荒木村重の支配するところとなるのであった。その村重も信長に謀叛をおこし、1579（天正 7）年とうとう落城してしまうことになり、約 250 年間の長い歴史を閉じたのである。

場所：神戸市中央区城山